azabu sukoyaka tsusin vol.40

麻生すこやか通信 VOL.40

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌　2021年7月

コロナ禍の行方、オリンピック、そして鬼手仏心

院長 飛驒 一利

日本脳神経外科専門医、脊髄外科指導医、日本脊髄外科学会理事長、日本脊髄障害医学会理事、北海道大学客員教授

昨年のすこやか通信は「新型コロナウイルスに負けない!」というタイトルでしたが、あれから1年経ちました。札幌はやや沈静化したものの、より感染性の強い変異種が心配な世の中となっています。ワクチン接種に時間が掛かっている札幌ではありますが、当院は昨年から今まで何とかコロナ患者ゼロを続けています。外来・入院の患者さま、そしてスタッフの多くの努力と幸運なお陰と思っています。ですがまだまだ安心は出来ず、我慢の日々が続くことと思います。

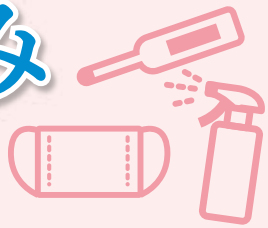
そのコロナ禍の中でももうすぐ東京オリンピック・パラリンピックが開かれます。札幌でもご存知のように男女のマラソン、競歩が行われ、私どもの病院のすぐ側をランナーが走ることになります。時節柄、密になる応援は出来ませんが、多くの記憶に残る出来事が起こることと思います。各国から来る多くのアスリートも無事に帰国して欲しいものです。

最近、私自身の家族、友人の頸椎の手術をしました。その前にも弟の腰椎の手術をしています。外科医の中ではよく「身内の手術は出来ないよ」と言われていますが、私自身はそんなには意識していません。延髄から仙骨までの脊椎脊髄の外科治療をしていますが、少しでも間違うと手足が動かなくなる可能性があります。手術には『覚悟を持った勇気』がやはり必要となります。私の好きな言葉で「鬼手仏心」という言葉があります。もちろん病気を直すのは患者さま自身の治癒力ですし、医師はその手助けをするくらいですが、外科医として術中は迷うことなくやるべき事を実践し、その後の治療および残された症状には最大限にケアしていくという意味だと思っています。

この6月から日本脊髄外科学会の理事長を拝命しました。大変名誉であると同時に身が引き締まる思いです。約1,300人の学会員のために、全力で努めたいと思います。今後も微力ながら、社会、そして医学界のために貢献していきたいと思っています。

新型コロナウイルス

麻生の感染対策への取り組み



当院では新型コロナウイルス感染症の流行初期から現在まで、患者さま並びに職員の新型コロナウイルス感染者は発生しておりません。（令和3年6月末日現在）

この成果については、ご来院される患者さま等からの様々なご支援やご協力の賜物であると共に、当院の医療安全管理部感染管理室を中心とした感染予防対策への取り組みの徹底に対する成果が出ているものと考えております。これから東京オリンピック・パラリンピックの開催や夏期休暇等で人の動きが増えるため、現在懸念されている第5波に備えて、更なる感染対策の強化が必要です。

今回は、当院の対策強化の取り組みの一部をご紹介させて頂きます。

check 職 員

当院では先日、職員への新型コロナウイルスワクチンの接種を行い、無事に2回の接種が終了致しました。また、私たち職員は不要不急の外出等はしないよう行動の自粛をする等、職員の感染予防を継続して行っております。

様々な場面において患者さまと接する職員が感染源になることが無く、皆さまに安心して受診、入院して頂けるよう努めています。

check 外 来

診察室への入室時には手指消毒をお願いしており、診察待合スペースはご利用される患者さまが間隔を取ってお座り頂けるよう表示を設け、1階喫茶スペース（テラス）は外来患者さま用と入院患者さま用にご利用頂くスペースを分けるように、工夫をしております。

check 入院病棟

現在も入院患者さまへの面会は引き続きご遠慮頂いており、ご家族さま等には大変ご迷惑をお掛けしております。そこで、患者さまとご家族さま等の対面方法として、パソコンやスマートフォン、タブレットにて無料Web会議サービス『ＢＩＺＭＥＥ』を利用したリモート面会を実施できるように環境を整えております。ご利用を希望される方は、病棟スタッフや担当職員へご相談下さい。

また、手術を目的に入院される患者さまに新型コロナウイルス抗原検査をお願いし、外来や入退院支援センターより入院2週間前からの行動歴の確認等へのご協力のご依頼を行い、安心して入院生活を送って頂けるよう努めております。

check リハビリテーション科

リハビリルームではリハビリを行う患者さま同士の間隔の確保をし、担当する職員もリハビリ実施時には、患者さま毎に手指消毒の実施とフェイスシールドやガウンを着用して、患者さまへ対応をしております。

check 救急外来

救急での患者さまの受け入れや診察等への対応は、常に救急処置室の衛生環境を整え、職員は必ずフェイスシールドや使い捨てのガウン、キャップ等の防護具を着用し、このような状況下においても24時間365日、万が一の際の受診を支えられるよう体制を整えております。

これからも皆様に安心して来院や受診をして頂けるよう、これまでの感染予防対策の継続を徹底して参ります。

外来患者サポート
職員のご紹介

受付ご案内

血圧測定サポート

問診票記入サポート

当院では平日の午前中、外来を受診される患者さまやそのご家族さま等に対してサポートを行う職員を配置しております。看護師資格を有した職員が、患者さまの近くでお手伝いをさせて頂きます。

問診票へのご記入が難しい患者さまの代わりに記入を行ったり、血圧測定や身体の不自由な患者さまに対する介助、受付窓口や外来窓口等へのお取次ぎ、病院内の設備や交通機関等に関する患者さまからの様々なお問い合わせに対するご回答やご案内など、そのサポートの内容は多岐に渡っております。

当院を受診された際に何かございましたら、外来患者サポート職員へお気軽にお声掛け下さい。

サポート職員配置時間

平日（月曜日～金曜日） 9:00～12:00

※勤務の都合により、職員の配置がない場合もございます。ご了承下さい。

編集後記

今号では当院での感染症等に対する対策の取り組みをご紹介致しました。私たちは以前より感染予防対策の徹底について特に力を注いでおり、あらゆる場面において適切かつ最適な対策の実践により、皆様や私たち自身も感染症より身を守ることが出来ているものと考えます。
このような状況下においても、皆様にご協力を頂きながら、安心して受診や入院をして頂けるよう職員一同努めて参ります。患者さまの笑顔が私たちの宝物です。

医療法人
札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321(代表) FAX 011-731-0559
ホームページ http://www.azabunougeka.or.jp

交通アクセス

- 地下鉄：南北線 北24条駅下車（2番・3番出口から徒歩約7分）
- 中央バス：「北21東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス：「北24東1」下車、徒歩約2分

携帯用サイト

当院へのバス路線 中央バス

屯田線02・新琴似線09・あいの里・篠路線22
篠路駅前団地線36・ひまわり団地線28
花川南団地線14・花畔団地線16・元町線東70
石狩線・石狩線(トーメン団地行)・札厚線・札浜線(特急)

※お間違いないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
  新琴似線09・花川南団地線14・花畔団地線16・石狩線・石狩線(トーメン団地行)
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。